

「令和 7 年度 クールジャパン官民連携プラットフォームの 活性化及び事例創出等におけるKGI/KPI 調査業務」 最終報告書

第1章 事業概要

- 本事業の調査目的・必須調査要件
- 本事業の調査内容
- 本事業のスケジュール

令和7年度調査目的

- 2024 年 6 月に決定した「新たなクールジャパン戦略」ではインバウンドの回復やマーケットの多角化など、クールジャパンを取り巻く環境が大きく変化し、新たなフェーズに入っていることを踏まえ、クールジャパン関連産業を定め、経済効果及び日本のファン拡大に向けた2033年のKGIを設定し、持続可能なエコシステムの構築や高付加価値化、海外への発信力・外国人コミュニティの強化などに取り組むこととされている。
- 「クールジャパン官民連携プラットフォーム」2（以下「CJPF」という。）は官民や異業種間の連携強化を図り、クールジャパン戦略の強化及び推進に資することを目的とし、2015 年12 月に設立された。
- 「新たなクールジャパン戦略」では、これらの変化に対応するべくCJPF の機能強化についても記載しており、令和 6 年度「クールジャパン官民連携プラットフォーム活性化及び事例創出等におけるKGI/KPI 策定調査」（以下「令和 6 年度調査」という。）では、クールジャパン関連産業（以下「CJ 関連産業」という。）の新たな分野や地域連携・異分野連携の先進的なモデルとなる事例の発掘と発信、ネットワーク活性化を目的とした「CJPF LAB」でのクールジャパン関係者（以下「CJ 関係者」という。）の交流の場の設置、国内外の日本ファンの外国人コミュニティとの連携を目指した「外国人コミュニティ調査」等を実施した。
- 本調査は、令和 6 年度調査も踏まえ、新たなクールジャパン戦略の推進とKGI/KPI の達成に向けたCJ 関連産業におけるモデル事例を策定すること及びCJPF のネットワーク活性化による機能強化を図るため、CJ 関連産業の事業者及び日本ファンの外国人を含むCJ の幅広い関係者の参画と戦略の認知拡大を目的とするものである。

令和7年度必須調査要件

- 令和 6 年度調査での成果と課題を踏まえて、令和 7 年度は、CJ 関連産業事業者及び日本在住の外国人を含めより多くのCJ 関係者を巻き込むための効果的な情報発信及び分野や国・地域、世代を超えた人的ネットワークの構築と新たな日本の魅力の発掘・発信に向けたCJ 関係者の連携強化を行う。
- 「コンテンツ」、「食・食文化」、「ファッション」、「化粧品等製品」、「インバウンド」を中核にした新たな領域の開拓等に配慮し、本調査の価値の最大化に資する提案・実施を行う。
- 「新たなクールジャパン戦略」及び2025 年 6 月の知的財産推進本部で決定予定の「知的財産推進計画2025」に則した形で提案・実証調査を行う。

調査内容（1／3）

（1）CJPF におけるCJPF AWARD 等各種イベントの企画・運営・評価に関する調査

- 令和7年度にCJPF が主催する各種イベントではKGI を設定するとともに、実施後に評価し、次年度以降の提言と合わせて報告書に取りまとめる。
- 各種イベントでは、CJ 関係者及び関係省庁や関係機関（日本政府観光局（JNTO）や日本貿易振興機構（JETRO）など）、メディア等へ後援依頼や広報業務において連携するための支援を行うとともに関係者へのイベント周知を行う。

① CJPF 総会

- CJPF の共同会長等執行体制メンバーは原則参加を前提とし調整を行い、クールジャパンプロデューサー（以下「CJ プロデューサー」という）や構成員、関係省庁等に広く案内の上、CJPF 総会を開催する。実施方法については、オンラインとリアル（対面）のハイブリッド開催とし、内閣府本府庁舎近郊の場所を（複数）提案する。
- 総会の内容については、会長及び副会長挨拶、知的財産推進計画2025 の紹介とCJに関連した基調講演やパネルディスカッション等、CJ 関係者の交流・情報交換等を行う機会ともなるような企画も具体的に提案すること。開催時期は2025 年8 月頃を目安とし、内閣府知的財産戦略推進事務局（以下「内閣府」という。）と協議の上決定する。

② CJPF AWARD

- 審査や表彰にはCJPF AWARD2025 までと同様にCJ 有識者の協力を要請する。実施部門については、従来のムービー部門とプロジェクト部門に限らず、2033 年のKGI 達成に向けてモデルとなる事業者を表彰する部門設定が望ましく、部門設計の提案を行う。
- 開催時期、表彰件数等についても令和6 年度を参考に検討すること。また、CJPF AWARD2025 の受賞者の取組は関係省庁や大阪・関西万博との連携を行い拡散しているが、令和7 年度のCJPF AWARD の受賞作品においても海外発信施策を提案すること。最終的には、提案をふまえ、内閣府と協議の上決定すること。

（2）CJPF 事業における調査、実装、運営・評価に関する業務

① 2033 年に向け内閣府が設定したKGI/KPI に対する実証

調査令和6 年度調査で実施した「新たなクールジャパン戦略」で定めたKGI である後述する i と ii の指標を継続して調査・計測、報告するとともに、今後のCJ 関連産業の拡大に資する調査を行い、先進事例の後に続く地域、事業者を増やすための調査を実施する。

i 国内外での外国人消費の拡大

(ア) コンテンツ（ゲーム、アニメ、マンガ、実写、音楽／ライブ・エンターテインメント）の海外展開

(イ) 食（農林水産物・食品の輸出、食品産業の海外売上） (ウ) ファッションの輸出、海外売上

(エ) 化粧品等製品の輸出、海外売上

(オ) インバウンド（訪日外国人旅行者消費額）

調査内容（2／3）

ii 外国人の日本ファン拡大

各分野におけるKGI/KPI（体験率、好感度など）の調査を行う。

iii コンテンツの地方における波及効果調査やその他の調査

アニメやゲームを中心に日本のコンテンツの人气が世界中で高まっている。世界から人気のあるコンテンツと異分野とを連携することでの波及効果も期待できる。代表的なコンテンツの地方における波及効果の調査を行うとともにその調査から他地域へと展開が広がるよう取りまとめを行うこと。また、そのほかCJ 関連産業の拡大に資する調査があれば提案を行う。最終的には、提案を踏まえ、内閣府と協議の上決定すること。

②CJPF 活性化調査

CJPF 構成員やCJ プロデューサー37 名3を含む、現CJ 関係者の知見や人脈を活用し、異業種・異分野連携の取組につながる場を設定する。また、CJ 関連産業の新規関係者の巻き込みと新たな担い手の参画を目指した調査を実施する。

CJPF 構成員及びCJP 間での交流と共通テーマや課題への知見の共有と補完を目的とし、令和6 年度実施した「CJPF LAB」を継続する。CJ 関連産業の更なる拡大に資するテーマを「新たなクールジャパン戦略」及び策定予定の「知的財産推進計画2025」との繋がりを意識し、提案を行う。年度内に最低6 回は実施すること。

テーマの提案と合わせて、開催場所も提案すること。また、プレゼンター・ファシリテーターとの調整、提出資料の管理、議事メモ（公開用・事業報告用）など運営についても行う。テーマ等は最終的には提案を踏まえ、内閣府及びCJ プロデューサー含むCJ 有識者と協議の上、決定すること。

実施に際し、より効果的な意見交換を行うため、現CJ 関係者及びその紹介者、関係省庁等限られた中の告知での開催とし、実施方法はオンラインとリアル（対面）のハイブリッド開催とし、内閣府本府庁舎近郊の場所を（複数）提案する。各回では参加者にアンケート調査を実施し、参加者の満足度を高める。併せて、登壇者やファシリテーターからのフィードバックを取りまとめ、次年度以降の取組への示唆となるよう設計すること。※対面参加は最大30-50 名前後の規模を想定。

③ CJPF モデル事例等各種プロジェクトの運営と評価項目の実装

CJ 関連産業における先進事例を発掘し、モデルケースとして複数の「成功パターン」を定義し、CJPF 構成員、CJ プロデューサー及び関係省庁等へ横展開する方策を実証する。

モデル事例の選定は、CJ 関連産業の中から行き、偏り過ぎ無いことを条件とする。

また、1 事業者の取組のみならず、異業種連携や地域・広域連携及び海外連携など複数事業者（自治体や大学なども含む）で共に魅力を高めている事例を提案する。最低1 つ以上は首都圏以外の地域のモデル事例を提案するとともに、体験価値化・高付加価値化に取り組み、海外需要を獲得している事例が望ましい。モデル事例の選定は、最終的には、提案を踏まえ、内閣府と協議の上決定すること。年度内に新たに5 事例以上はサイトへ掲載すること。

調査内容（3／3）

④ 外国人材の活躍調査

令和6年度調査で得られた「外国人コミュニティリスト」、海外出身CJプロデューサー、CJPF AWARDのこれまでの受賞者等各地域で活躍されている外国人、あるいはCJ関連情報を外国人と連携し海外発信に取り組まれている事業者、自治体、DMO等にヒアリングを行い、クールジャパン推進における外国人との連携策を調査し、取りまとめる。ヒアリング先や取りまとめ方に関して提案すること。最終的には、提案を踏まえ、内閣府と協議の上決定すること。

⑤ その他CJPF事業の発信・運営

- i 内閣府とCJPFにて実施する各種イベント・プロジェクトの事務局業務を担う。
- ii 各種取組はCJ有識者（CJプロデューサー含む）の意見も踏まえ、企画・運営を実施する。
- iii 各種プロジェクトの実施主体となるアクティブな人材、企業、教育・研究機関等の提案を行い、名簿を作成する。
- iv 各種プロジェクトの管理運営に伴走し、報告書に取りまとめる。
- v CJPFのWebサイト（<https://cjpgf.jp/>）に各取組の情報を取りまとめ、運営・管理・発信を行う。Webサイトは日本語だけでなく、英語ページの作成も含む。併せて、CJ関係者にWebサイトがより見られるための方策を令和7年度内に検討し、内閣府と協議すること。

（3）打合せ及び会議の運営並びに各種報告書の作成

① 事務局との進捗報告会を開催する。

- i 打合せ及び会議体の運営については、定例報告を実施（隔週開催～月次開催）し、その中でアジェンダを決定する。毎回議事メモは納品すること。
- ii 参加者からの情報を取りまとめ、関係者間で適宜共有を行う。
- iii その際、必要に応じて、CJプロデューサーやCJPF構成員への情報提供や意見交換を実施する。
- iv 会議を開催する場合は適切な会場を用意することとし、必要に応じて、WEB会議システムを活用する。
- v 実証調査、各種イベント、プロジェクトの企画へ登壇や審査員等で協力いただくCJ有識者や外国人等への謝金については、内閣府で定める令和7年度諸謝金の使用基準を根拠とした額を支払う。

② 中間報告及び最終報告

- i 中間報告及び最終報告を実施し、CJPFの継続運営に資するKGI/KPIの評価を行う。
- ii 知的財産戦略本部構想委員会における議論、「知的財産推進計画2026」におけるクールジャパン戦略の推進に関する議論に資する提言を行う。

事業名	業務内容	2025年7月	2025年8月	2025年9月	2025年10月	2025年11月	2025年12月	2026年1月	2026年2月	2026年3月
CJPF AWARD	開催準備・審査設計									
	募集・告知・集客									
	事前審査・審査会									
	表彰式準備・表彰結果の発表									
	表彰式									
KGI/KPI調査 HUMANMEDIA Vpon	調査概要・原案作成・調査票作成									
	本調査実施・報告書作成									
CJPF LAB	要件設計									
	LAB参加メンバー登録/投稿									
	LAB実施									
	報告書作成/報告会									
CJPF 総会	会場調整・周知発信									
	総会実施									
	報告書作成/報告会									
CJPF 外国人コミュニティ	要件設計									
	アポイントメント・面談									
	連携方法の議論									
	報告書作成/報告会									
各種報告書の作成	中間報告									
	最終報告									

第2章 実施業務詳細

- (1) CJPF におけるCJPF AWARD等各種イベントの企画・運営・評価に関する調査
 - CJPF総会（クールジャパンフロンティア toward2033）
 - CJPF AWARD
- (2) CJPF 事業における調査、実装、運営・評価に関する業務
 - ① 2033 年に向け内閣府が設定したKGI/KPI に関する実証調査
 - ② CJPF 活性化調査
 - ③ CJPF モデル事例等各種プロジェクトの運営と評価項目の実装
 - ④ 外国人材の活躍調査
 - ⑤ その他CJPF 事業の発信・運営
- (3) 打合せ及び会議の運営並びに各種報告書の作成

(1) CJPF におけるCJPF AWARD等各種イベントの企画・運営・評価に関する調査

- CJPF総会（クールジャパンフロンティア toward2033）
- CJPF AWARD

クールジャパンフロンティア toward 2033



参加対象・開催概要

参加対象

- ・ 共同会長等執行体制メンバー全員
- ・ CJプロデューサーや構成員、関係省庁担当者
- ・ クールジャパン、クールジャパン官民連携プラットフォーム、知財計画等関心の民間企業やメディア

開催概要

- クールジャパンフロンティア toward 2033
- 開催日時：2025年10月3日（金）11:00-14:00
 - 開催方法：会場またはオンライン
 - 開催会場：赤坂インターシティコンファレンス（東京都港区赤坂1-8-1／溜池山王駅直結）
 - 主催：内閣府 知的財産戦略推進事務局
 - 運営事務局：クールジャパン官民連携プラットフォーム事務局（Vpon）

クールジャパンフロンティア toward 2033

開催前各種発信

知財事務局 PR Times



知財事務局 発信からの転載



知財事務局揭示



Vpon PR Times



Vponメルマガ（会員6,000名）



VponSNS（X,FB）



クールジャパンフロンティア toward 2033

タイムスケジュール

時間	次第
11:00	開会挨拶（司会：渡邊賢一氏）
11:02	共同会長からのご挨拶（夏野剛氏、田中里沙氏）
11:12	エグゼクティブディレクターからのご挨拶 （糸谷祥輝氏、軍地彩弓氏、矢野貴久子氏、山田早輝子氏）
11:20	成長分野であるファッション・化粧品分野の今後の海外展開拡大に向けた取組について （軍地彩弓氏、矢野貴久子氏）
11:35	（休憩）
11:50	城内大臣からのご挨拶
11:55	新たなクールジャパン戦略の推進（中原 内閣府知的財産戦略推進事務局長）
12:05	パネルセッション「クールジャパンの未来 世界に響く“日本らしさ”の設計図」 （夏野剛氏、河森正治氏、相川七瀬氏、渡邊賢一氏）
12:55	クロージング（田中里沙共同会長）
13:00	（休憩）
13:15	交流会

配布資料1(冊子にて共同会長以下CJPF執行役員およびディスカッションパネリストを紹介)

クールジャパンフロンティア toward 2033

配布資料2(1枚チラシによるCJPFの活動および直近イベントを紹介)



クールジャパン官民連携プラットフォーム（CJPF）とは

クールジャパン戦略を深化させ、官民一体となってクールジャパンに取り組むことを目的として、官民・異業種連携の強化を図る場として、2015年に設立されました。団体、法人、個人を含む200を超える方々に参画いただいています。

https://www.cao.go.jp/cool_japan/platform/platform.html

CJPF AWARD

日本の魅力をストーリーとして発信するムービー（動画）、外国人から共感を得られるストーリーとして展開するプロジェクト（事業）を募集し、表彰しています。表彰事例は関係省庁と協力しながら、在外公館等での発信も行っています。



クールジャパンモデル事例

クールジャパン関連産業の先進事例取材し発信しています。魅力の磨き上げや海外へ魅力を伝えるアプローチなど産業を超えて、様々な切り口での先進事例を取り上げています。



CJPF LAB

クールジャパンの担手の交流活性化、知見の共有を目的として実施しています。クールジャパンに関する業界やトピックを取り上げ、有識者からの事例・取組紹介から参加者との質疑やディスカッションを通して知見を深める場づくりを行っています。

今年度の第1回は「テクノロジーから考えるナイトタイム・クールジャパンの可能性」と題し、日本を代表するドローン企業 レッドクリフ佐々木代表、光を活用したクリエイティブカンパニーネイキッドの久保執行役員がご登壇し、事例紹介や質疑、ネットワーキングを9月24日に実施しました。



CJPF今後の取組予定 第2回 CJPF LAB

第2回は「スポーツ・クールジャパンの可能性」と題し、IP×スポーツをエンタメ社会学者の中山淳雄氏、サッカー×クールジャパンを公益財団法人日本サッカー協会 清野優斗グループ長にご登壇いただき、JFAのサッカー文化創造拠点「blue-ing!」にて開催いたします！
開催日時：10月10日（金）15時30分から17時00分

会場：東京ドームシティ内 JFAが発信する 新たなサッカー体験施設
「blue-ing!（ブルーイング）」

会場URL: <https://blueing.jfa.jp/>

本イベントをきっかけにスポーツ×クールジャパンの取り組みをぜひご検討ください。

その後希望される方は別途、19時20分Kickoffキリンチャレンジカップ日本代表戦のライブビューイングご参加が可能です。※飲食有りのため有償

CJPF LAB第3回以降のテーマ（予定）

ファッション、Beauty、コンテンツ×非コンテンツ、業界横断、海外視点等

Webサイト



<https://cjpf.jp/>



CJPF

クールジャパン官民連携プラットフォーム



考える



Instagram



事務局へのお問い合わせや

クールジャパン官民連携プラットフォームご入会希望の方はこちら



cjpf@vpon.com

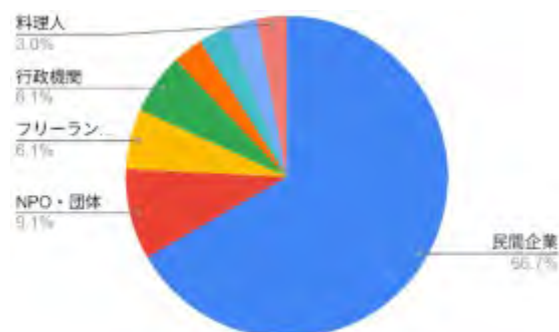
クールジャパンフロンティア toward 2033

参加・申込数

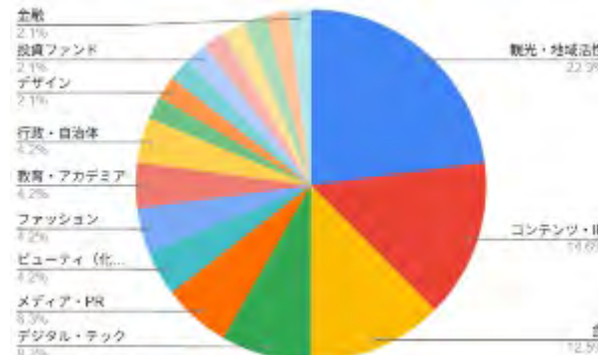
	申込数	参加数	参加率
会場参加	109	58	53.2%
オンライン	140	90	64.3%
合計	249	148	59.4%

アンケート結果（n=33）

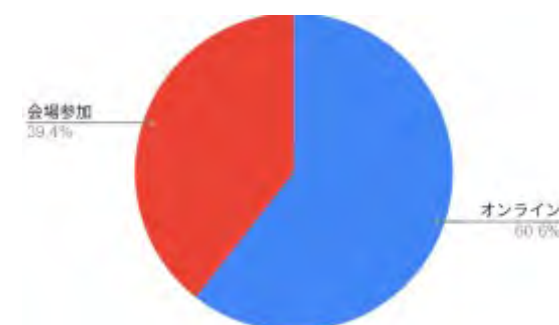
所属



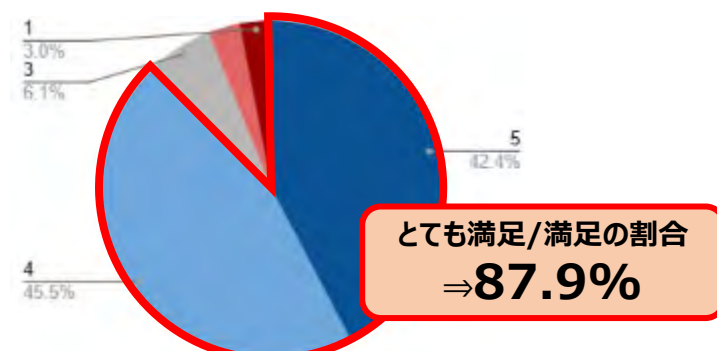
業界・業種



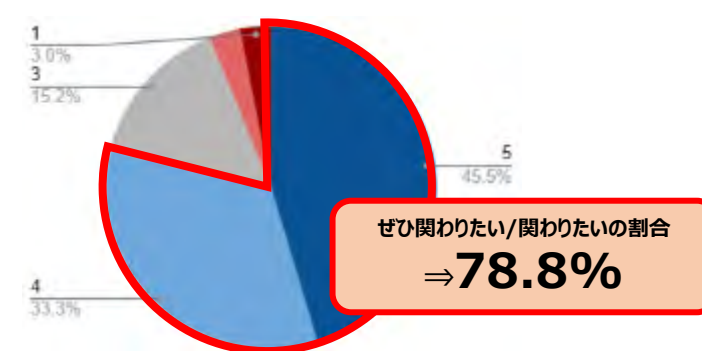
参加形態



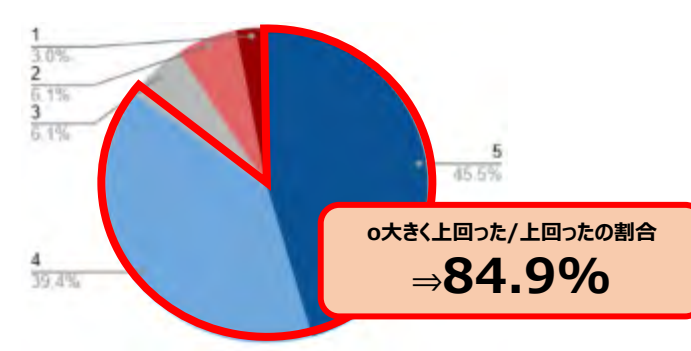
全体満足度



CJPFへの関わり関心度



参加前期待に対する満足



今回のイベント全体の満足度を5点満点でお答えください。
1（とても不満）～5（とても満足）

他のイベント等、CJPF（クールジャパン官民連携プラットフォーム）活動全体への関わり意向はありますか？
1（ない）～5（ぜひ関わりたい）

参加前の期待に対して、満足度はどうでしたか？
1（大きく下回った）～5（大きく上回った）

クールジャパンフロンティア toward 2033 アンケート総評

● 満足度

総じて高い満足度を得られ、約88%が満足し、約79%がCJPFへ関わりをもつことに関心を示したことから、認知獲得や関心向上の機会創出につながった。

● アンケート

- ・ 大臣からの直接の発信があったことが良かった
- ・ 交流会にも高い評価を得られ、横の連携機会創出に効果的であった
- ・ パネルディスカッションは特に多数の好評価の回答
- ・ 一時的にオンライン視聴に音声トラブルが発生した点は要改善
- ・ マッチング事例やイベント開催をしている事業者の回答もあり、CJPFとの連携可能性の検討の一助となった
- ・ 自社の活動を共有・事例取材してもらいたいといった回答もあり、構成員・参加者との連携も検討できると参画インセンティブとなりうる

● 総論

今年度高い評価を得られたことから次年度も実施する意義はあるが、どのような発信をする場とするか、どのような方々に登壇・発信していただくか、国の方針・2026知財計画の理解促進といった目的を明確にした企画設計が必要。

また、横の連携促進として、交流会を活性化する運営上の企画検討なども論点として議論する必要がある。

【次年度に向けた示唆】

- | | |
|------------|--|
| ✓開催意義 | ▶一過性のイベントに終始せず、参加者の連携・共創が自律的に進むような仕掛け導入 |
| ✓集客数の向上 | ▶CJPFネットワーク活用による積極周知、他省庁・民間団体が主催する外部イベント連携 |
| ✓AWARD価値向上 | ▶グランプリ、準グランプリ受賞者による発表、受賞作品の展示エリア導入 |
| ✓参加者の連帯感醸成 | ▶主催側の一方通行にならず、イベント参加者同士の交流、発信に重きをおいた設計 |

クールジャパンフロンティア toward 2033

アンケート：良かった点・印象に残った点（フリーテキスト）

城内大臣登壇によるクールジャパンへのメッセージ、政府が定める「新たなクールジャパン戦略」への期待感、参加者同士のネットワーキングの機会創出など、全般的に好印象のコメントが見受けられる。また、特にパネルディスカッションの内容について、多数のポジティブコメントあり。

良かった点・印象に残った点

盆踊り

熱量あるパネルディスカッションが素晴らしかった

日本の教育のあり方についての意見

大臣より直接お話をお伺いする事ができた点

多様性についての皆さんの意見がとても印象的でした。そのようなマインドと仕組みをつくっていく活動に是非寄与できればと思います。

今後の成長戦略基幹に漫画・アニメのコンテンツ事業は大変重要であり、大きな資産となる。

今回最後のセッションの途中からの参加で申し訳なかったのですが、アーカイブを見たいと思いました。来場されている方と名刺交換できたのは良かったと思います。

後日、関連資料のデータをいただけるとありがたいです。

機運盛り上げの活動と理解できるが、設定目標の実現可能性の実感がわからない。目標だけがひとり歩きしているように思える。成長の主役をつとめる方の話を聞きたい。

会場にもオンラインにも参加できませんでした。cjpf@vpon.com にオンラインのURLをお送りくださいとメールしたのですがお返事が無く。

移動中に部分的にしか視聴できなかったのですが、パネルディスカッションの中でいろんな問いが生まれてとても面白かったです

パネルディスカッションはもっと聞いていたかった。※アーカイブでもう一度観たい。

パネルディスカッションの皆さんの発言がとても有意義に拝聴いたしました

パネルディスカッションと、内閣府の計画の共有

パネルディスカッションで河森監督の、日本の伝統精神性への言語化が秀逸がとても印象に残りました。先日締め切りのCool Japan Awardの動画部門に申し込んだ内容の取り組みもそうですが、これまで、日本の伝統精神性は世界平和につながるから、守らねばならないと思っていたことが、うまく言語化できず、人を説得説明することに難易度を感じていた部分を鮮やかに言語化してくださり、今後日本の非言語寄りの伝統精神性を、言語化社会である西洋の文脈の世界に広げようという取り組みにおいて、大変示唆深い内容で感動しました。私自身、

パネルセッション、「はっ」とするコメントがたくさんありました。

なぜ全省庁の食育基本法や食糧安全保障 栄養経済 総合教育政策局 社会教育とリンクしていないのか

すべてが事業意欲が湧く素晴らしい内容

すべて

クールジャパン戦略の最新状況を知るととても良い機会でした。

CJ事業は「もはや国の基幹産業」

クールジャパンフロンティア toward 2033

アンケート：改善・運営への提言（フリーテキスト）

音声や映像の乱れによるシステム不具合や、参加者同士が有意義に参加出来るネットワーキングの進め方に関する工夫を求める声あり。また、当日参加が出来なかった人や、一部のコンテンツしか体験出来なかった人向けに、事後レポートやアーカイブ配信を望む意見も散見された。

改善・運営への提言

特になし。前のほうのセッションは聞いていないので、上記 1 を入れておりますが、悪かったわけではありません。後日の開催レポートを楽しみにしております。

前半の部分、映像・音声が止まった部分があった

交流の時間

見れなかったので、オンラインの録画をご手配頂きたいです。

貴重なご縁と学びを頂きました。本当にありがとうございました。

化粧品の輸出額が日本は韓国の三分の一にショックを受けた。

音が聴きづらい箇所がいくつかあった

フルで見れなかったので本日の内容の録画配信をしてほしいです

ビジネス目線だけでなく、クリエイターが主役に加わってほしい。

パネルディスカッションがとてもイキイキしていて、冒頭のあいさつやプレゼン系よりもさらにイキイキした時間で、とても示唆深く得るものの多い時間でした。

なし

2015年にはじめての取り組みについての反省点を聞きたかった。できたことより、できなかったことから学ぶことの方が大きいと思うので。

（小さなことかもしれませんが）途中のシステムの不具合で、聞こえなかった部分がありました

・挨拶の時間が多いし長い・ネットワーキングがだらっとはじまったので、ネットワーキングしやすいフリやまわしをしてくださる補助などいच्छあればとおもった

クールジャパンフロンティア toward 2033

アンケート：CJPFとの連携について（フリーテキスト）

外部イベント（インバウンドビジネス総合展）や、クールジャパンに関わるマッチング実績を多く持つ企業など、CJPFとの連携を望むアンケート結果が得られた。また、コンテンツ×テック、コンテンツ×食など、コンテンツと異業種の接続を望む意見も得られた。

CJPFとの連携について

来年3月に日本経済新聞社で「インバウンドビジネス総合展」を開催するので、是非連携させていただきたいと思います。

弊社もマッチング等の事例はあるので、何かお手伝いできることがないか模索中です。

弊社の事業そのものの設計がCJPFを前提としているので様々な連かいが可能であると考えます。

通訳案内士の業務を行っていますが、コンテンツ産業の情報の入手での連携

食関連全般

工芸と食の結びつき

可能であれば、CJPFに取り上げていただいた弊社活動のその後を追加取材＋掲載いただけると大変嬉しいです。

コンテンツテックのスタートアップを支援しています。テック×コンテンツIP×アートの視点でクールジャパンを盛り上げられればと思います。

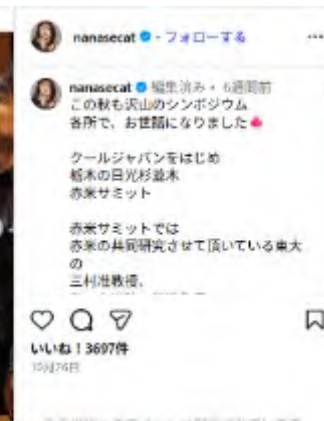
クールジャパンの「食」の部分として和食・茶文化と異業種との協働

IPを活用した海外展開を考えているので、ネットワーキングの強化に協力していただきたい

ANAの社員として、また個人事業主として、「神社」という日本伝統精神性を受け継ぐ代表的な文化資産を最大活用し、次の世代に受け継ぐこと、ひいては世界に広めることの取り組みを行っており、間もなく8万社が4万社になってしまうといわれている、全国の神社さんに展開し、収入源を作る形で寄与したいと模索し様々なコンテンツの実施PDCAを行っております。

クールジャパンフロンティア toward 2033

開催の様子



(1) CJPF におけるCJPF AWARD等各種イベントの企画・運営・評価に関する調査

- CJPF総会（クールジャパンフロンティア toward2033）
- CJPF AWARD

CJPF AWARD 2026 スケジュール

- ◆ 募集期間：2025年8月6日(水)～9月30日(火)
- ◆ 募集期間終了後はスケジュールにしたがって審査、表彰式に向けた準備を進めた

	10月				11月				12月				1月				2月				3月
	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	5	12	19	26	2	9	16	23	2
事務局1次審査																					
ムービー部門																					
基礎審査		●																			
事務局審査			●																		
プロジェクト部門																					
基礎審査		●																			
事務局審査			●																		
審査員2次審査																					
ムービー部門																					
採点-集計					●	●	●	●													
審査員長レク									●												
審査会										●											
プロジェクト部門																					
採点-集計					●	●	●	●													
審査員長レク									●												
審査会										●											
内定連絡-表彰式																					
内閣府承認														●	●						
内定者連絡・情報回収																●	●	●			
PRTIMES																			●		
表彰式																					●

CJPF AWARD 2026 趣旨・応募概要

- ◆ 令和7年度クールジャパン・プラットフォームアワード（クールジャパン官民連携プラットフォーム活性化及び事例創出等におけるKGI/KPI策定調査業務）に係る実施業務において、対象事例の募集を行うため、アワードのタイトル、主旨文、募集要項等の作成を行った。

1

タイトル

クールジャパン・プラットフォームアワード2026

2

主旨文

日本の魅力を発信するムービー、魅力の体験価値を高めるプロジェクトを募集・表彰

3

開催趣旨

2024年に日本を訪れた訪日外国人旅行者は3,600万人を超え、訪日外国人旅行消費額は約8兆1,257億円、訪日外国人旅行者1人当たりの旅行支出も22万円を超えるなど、過去最高を更新しました。

また、昨年決定された「新たなクールジャパン戦略（※1）」では、インバウンド（訪日外国人旅行消費額）に加え、コンテンツ、農林水産物・食品、ファッションや化粧品等の海外展開など、クールジャパン関連産業の経済効果を2033年までに50兆円以上の規模に拡大すること（※2）、同じく2033年までに各国地域の日本への好意度を10pt上昇させること（※3）を目標に掲げています。この目標の達成に向けては、量的側面だけでなく、日本の魅力をより高い体験価値として提供する高付加価値化された質的側面にも着目した取組を推進します。こうした中、本年もクールジャパン官民連携プラットフォーム（CJPF）（※4）は、日本の魅力を海外に発信、展開し、日本のファンを拡大することによりクールジャパン戦略を推進するために、「CJPFアワード2026」を開催します。

※1：これまでの「クールジャパン戦略」で示した基本的なコンセプトやアプローチを踏まえつつ、中核であるコンテンツ産業に関する戦略も含め、クールジャパンを取り巻く環境の変化に対応した実効的なアクションプランベースで「新たなクールジャパン戦略」を策定。 https://www.cao.go.jp/cool_japan/aratana/pdf/honbun.pdf

※2：クールジャパン関連産業の最新数値に基づく海外展開の合計は27.1兆円。

※3：2024年時点の調査結果では日本を「好きな国」とする率は、全世界の国・地域平均で56.2%、アジア平均は69.3%、欧米豪平均は31.0%。

※4：内閣府知的財産戦略推進事務局は、2015年12月に官民一体となってクールジャパンを深化させつつ取り組む体制を構築するため「クールジャパン官民連携プラットフォーム」を設立。
<https://cjpf.jp/>

4

募集概要

「CJPFアワード2026」は、コンテンツ(ゲーム、アニメ、マンガ《出版》、実写《映画/ドラマ/ファクチュアル》、音楽/ライブ・エンターテインメント等)や食・食文化、観光、化粧品・ファッション等のものづくり、流通・サービス、伝統産業・文化、地域産業・地域文化、最先端の産業・技術・文化等の幅広い分野にて、ムービー（動画）部門とプロジェクト（事業）部門の2つの部門で募集します。ムービー部門は海外に向けて日本の魅力を発信して共感を促すムービーを、プロジェクト部門は海外展開・インバウンド消費において日本の魅力の体験価値を高めたプロジェクトを、審査員による選考を経て、グランプリ等の賞を授与します。

特に分野間、地域間を横断・連携して相乗効果を高めた取組や、海外発信・展開とインバウンド消費の循環やリポート化に貢献した取組を評価します。

CJPF AWARD 2026 募集要項（ムービー部門）

募集対象	海外に向けて日本の魅力（※1）を発信し、共感を促すムービー（動画）。 （※1：コンテンツや食・食文化、観光、化粧品・ファッション等のものづくり、流通・サービス、伝統産業・文化、地域産業・文化、最先端の産業・技術・文化等）	募集期間	2025年8月6日（水）～9月30日（火）
応募条件	・映像で日本の魅力を扱ったムービー（動画）であること。 ・外国語の使用、字幕の有無（音声の有無）等、発信の手法は問わないが、海外への発信（外国人視聴者）を想定した動画であること。 ・2022年以降に発表・公開された映像であること。 ・5分程度のムービー（動画）であること。 ・過去に開催されたCJPFアワード又はクールジャパン動画コンテストで入賞した作品の応募は不可。 ・ムービーの製作者又は権利者による応募であること。使用素材については応募者の責任において当該著作者の許諾を得た上で応募すること。 ※複数作品で構成されたシリーズは、個別にご応募ください。 ※募集締切（9月30日(火)）以降に発表・公開予定のムービーは、データが完成済みの場合に限り応募可能です。 ※既に公開が終了しているムービーについても応募可能です。		
応募者の条件	・ムービー（動画）の製作者または権利者。 ・企業、行政機関、地方公共団体、各種団体、学校、個人等の所属は問いません。 ・同じ応募者による複数応募も可能です。 ・プロジェクト部門に応募した取組の関連動画をムービー部門に応募することも可能です。		
選考	選考はクールジャパン官民連携プラットフォームの有識者や日本の魅力に理解が深い外国人等からなる審査員が行います。審査では、テーマとする日本の魅力、映像を発信する国・地域・言語圏・対象者の選定と発信・展開手法の適切さ、テーマとする魅力を対象者に伝える映像の表現や演出の工夫、日本の魅力への共感を促す効果等を評価します。分野間、地域間を横断・連携して相乗効果を高めたムービーは加点の対象となります。		
賞	選考により、グランプリ、準グランプリ等、優れたムービーの表彰を予定しています。 ※賞の発表・表彰：2026年2～3月（予定）に受賞発表、贈賞を行います。 ※賞につきましては、応募状況や審査結果により変更になる可能性がございます。 ※受賞は、クールジャパン官民連携プラットフォームの広報への協力をいただくことを条件とします。 ※受賞したムービーの関係者が、受賞したムービーの品位や価値を棄損する恐れのある、法令・条例の違反や公序良俗に反する行為を行い、発覚した場合は受賞を取り消す場合があります。		

CJPF AWARD 2026 応募フォーム（ムービー部門）

※Microsoft formsの利用

応募フォームの項目
応募フォームの言語を選択してください
ムービー(動画)タイトル
ムービーの長さ
視聴可能なURL
公開時期を入力してください
既に公開が終了しているムービー、今後公開予定のムービーは、下記に公開期間・公開予定時期をご記入ください
ムービーの目的
ムービーで扱っている日本の魅力の分野
ムービーでテーマとする日本の魅力、伝えたいこと（200文字以内）
テーマとする日本の魅力を視聴対象者に伝えるために、どのような映像表現や工夫を加えたか（200文字以内）
視聴対象者の国・地域・言語圏・年齢層などの属性。視聴対象者に届けるためどのような発信の手法をとったか（200文字以内）
視聴者をアクション(訪日・体験・購入・SNS発信等)に導くためにどのような工夫をしたか（200文字以内）
上記の発表・公開に使用した媒体と累計視聴回数
将来に向けた展開の予定があるか（200文字以内）
テーマとする日本の魅力について、分野間（主体間、地域間、国内・海外間も含む）の横断・連携により効果を高めたか。そのための工夫があるか。（200文字以内）
応募者属性
応募者名（企業・団体）
部署・役職名
担当者名（個人名）
住所（郵便番号+住所）
メールアドレス

※2026は記入可能文字数を200文字に増やし、より記載できる領域を拡大。

CJPF AWARD 2026 募集要項（プロジェクト部門）

募集対象	海外展開・インバウンド消費において日本の魅力(※1)の体験価値を高めたプロジェクト（販売・サービス・広報等の事業）。 (※1：コンテンツ、食・食文化、観光、化粧品・ファッション等のものづくり、流通・サービス、伝統産業・文化、地域産業・文化、最先端の産業・技術・文化等)	募集期間	2025年8月6日（水）～9月30日（火）
応募条件	・日本の魅力(※1)を扱ったプロジェクト（事業）であること。 ・海外展開、インバウンド対応、海外への情報発信・広報等外国人を対象とした又は対象とする予定のプロジェクト（事業）であること。 ※現在は国内向けに展開しているものでも、海外展開やインバウンド向けに進めているプロジェクト（事業）も応募可能です。 ・2022年以降に実施されたプロジェクト（事業）であること。 ※2022年より前から現在まで継続的に実施されているプロジェクト（事業）も応募可能です。 ・営利事業、行政による広報等の非営利事業のいずれも応募は可能です。 ・過去に開催されたCJPFアワード又はクールジャパン・マッチングアワードで入賞したプロジェクトの応募は不可。ただし同主体による別のプロジェクトの応募は可能です。 ・分野・地域・官民・世代等を超えた連携は必須ではありませんが、連携によって効果を高めたプロジェクト（事業）の応募を推奨しています。連携がある場合には、相手先名と連携により効果を高めた工夫を記入してください。		
応募者の条件	・プロジェクト（事業）の主体または関係者。 ・企業、行政機関、地方公共団体、各種団体、学校、個人等の所属は問いません。 ・同じ応募者による複数応募も可能です。 ・ムービー部門に応募した作品の関連事業をプロジェクト部門に応募することも可能です。		
選考	選考はクールジャパン官民連携プラットフォームの有識者や日本の魅力に理解が深い外国人等からなる審査員が行います。審査では、日本の魅力の体験価値を高めた工夫と効果、海外・インバウンドの対象者選定と手法の適切さや、体験者・ファンの拡大の実績（又は見込まれる期待）、プロジェクトの継続性・発展性等を評価します。分野間、地域間を横断・連携して相乗効果を高めたプロジェクトは加点の対象となります。		
賞	選考により、グランプリ、準グランプリ等、優れたプロジェクトの表彰を予定しています。 ※賞の発表・表彰：2026年2～3月（予定）に受賞発表、贈賞を行います。 ※賞につきましては、応募状況や審査結果により変更になる可能性がございます。 ※受賞は、クールジャパン官民連携プラットフォームの広報への協力をいただくことを条件とします。 ※受賞したプロジェクトの関係者が、受賞したプロジェクトの品位や価値を棄損する恐れのある、法令・条例の違反や公序良俗に反する行為を行い、発覚した場合は受賞を取り消す場合があります。		

CJPJF AWARD 2026 応募フォーム（プロジェクト部門）

※Microsoft formsの利用

応募フォームの項目
応募フォームの言語を選択してください
プロジェクト(事業)の名称
プロジェクトの公式WEBサイトがある場合は下記にURLを記入ください。
実施の時期・期間
プロジェクトの目的
プロジェクトで扱っている日本の魅力の分野
プロジェクトの概要（200文字以内）
アピールポイント（200文字以内）
プロジェクトでテーマとする日本の魅力と提供している体験(200文字以内)
テーマとする日本の魅力の体験を促進して、体験価値を高めるための工夫を加えたか（200文字以内）
海外展開・インバウンドの対象者の国・地域・言語圏・年齢層などの属性。その選定理由（200文字以内）
対象者に届けるためにどのような手段をとったか（200文字以内）
世界（全体・特定の地域）またはインバウンドに事業を展開した実績、または見込まれる期待（200文字以内）
テーマとする日本の魅力について、分野間（主体間、地域間、国内・海外間も含む）の横断・連携により効果を高めたか。そのための工夫があるか（200文字以内）
プロジェクトの今後の継続性・発展性、および期待される波及効果について（200文字以内）
プロジェクトの体験者を体験・消費・リピート行動に誘導した実績、あるいは見込まれる期待があるか。そのための工夫があるか（200文字以内）
応募プロジェクトの企画書または視覚的に説明する資料データの送付（ページ数は20ページ以内）
応募者属性
応募者名（企業・団体）
部署・役職名
担当者名（個人名）

※2026は記入可能文字数を200文字に増やし、より記載できる領域を拡大。

CJPF AWARD 2026 集客メディア等

PRメディア



SNS



メルマガ・メール



SNS広告



その他：審査員の方々からの発信、各種イベント等での紹介、事務局営業担当の紹介、昨年度応募企業への個別連絡 等

CJPF AWARD 2026 応募の促進

◆対象事例の募集は、本事業のWEBサイトを開設し、募集告知・応募受付を行うと同時に、応募の促進の方法として、下記の施策を実施した。

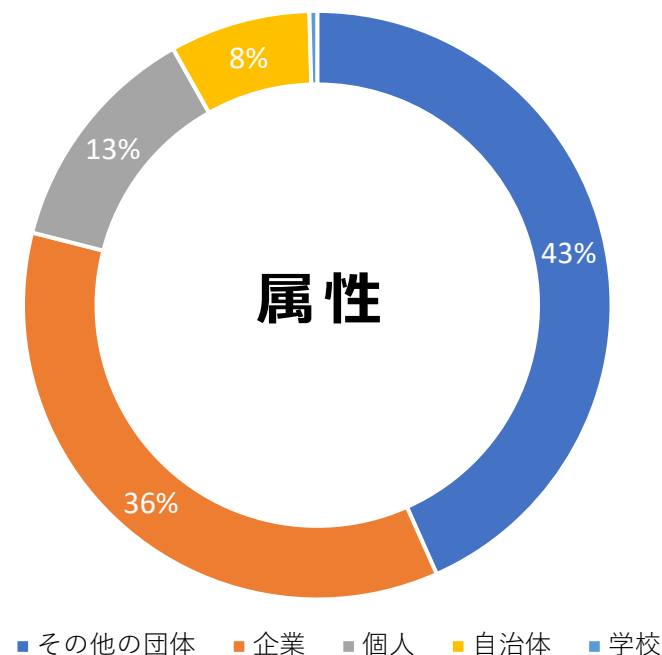
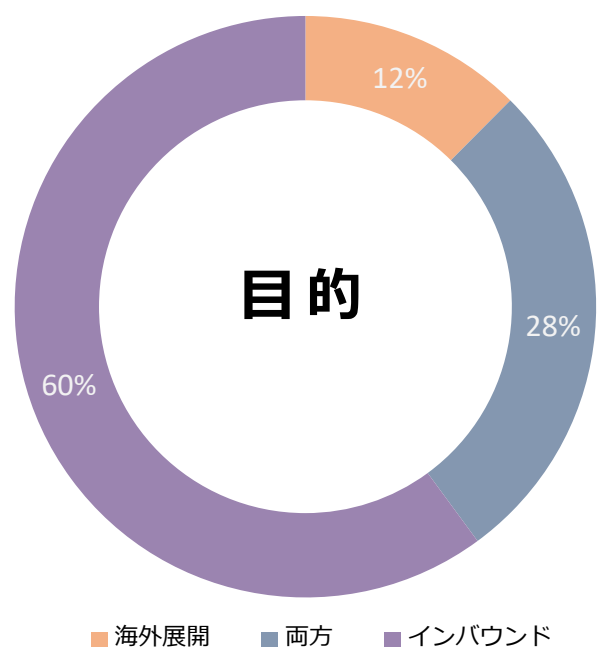
チャンネル名	実施概要	結果
PR TIMES	CJPF AWARD 2026実施のお知らせを掲載	一般メディアに対して認知拡大ができた
PR TIMES	Vpon側のPR TIMESにて同様の内容を掲載	
Vponメールマガジン	Vponにて登録されている自治体・企業へメールマガジンを配信	観光に関わる自治体・企業に広くアプローチすることができた
Vponメールマガジン 第二弾		
Vponメールマガジン 第三弾		
Meta広告配信	応募を促すSNS広告の配信	ターゲットを絞りアプローチすることができた
Linkdinへの投稿	Linkdinを活用し、募集を促進	ビジネス層に向けアプローチすることができた
CJPF会員へのメール告知	CJPF会員に対し、応募促進を実施	CJPF会員の関与する団体に対し応募につなげることができた
後援団体への依頼	各種後援団体へ依頼を実施	後援団体加盟会員などに対しアプローチすることができた
昨年度応募企業へのアプローチ	メール・電話にて昨年の応募企業に対してアプローチ	過去の応募者から案件の応募につなげることができた
Cool Japan関連インフルエンサー	独自リサーチを行いインフルエンサーにアプローチ	若年層へのアプローチを行うことができた
業界アプローチ	業界カットでリストを作成し、メールを配信	業界カットでメール文面を分けてアプローチすることができた
個別アプローチ	PR TIMESなどから取り組みを収集し個別に応募促進を実施	タイムリーな取り組みに対してアプローチすることができた

CJPF AWARD 2026 募集結果

ムービー部門 応募件数

237件

- ムービー部門はインバウンド向けが6割を占める結果となった。
- 海外展開向けは12%に留まる結果となった。
- その他の団体として観光連盟関連の応募が非常に多い結果となった。
- 昨年に比べ個人の比率が5%から13%と伸びた。



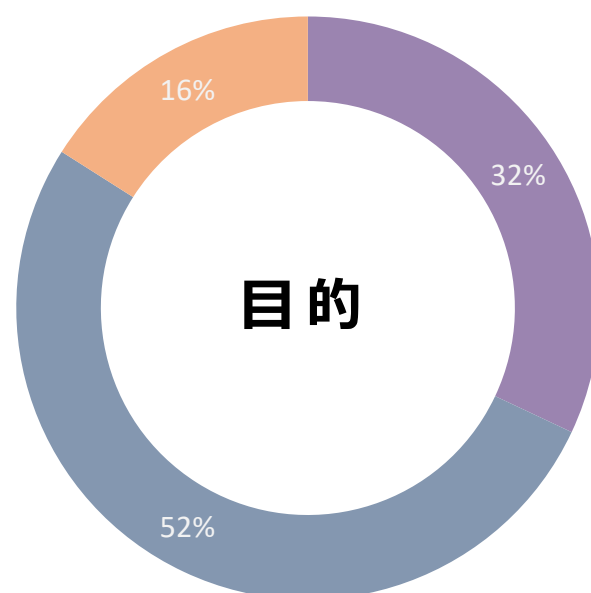
CJPF AWARD 2026ムービー部門では、インバウンド関連が単独・併用を含め8割強に達し、訪日需要の回復・拡大を背景に「**海外から日本へ呼び込む**」目的のコンテンツが主流となった。一方で、海外市場におけるブランド浸透や販路開拓を主目的とした純粋な海外展開型は限定的であり、**日本国内誘客に依存した構造が依然として強い**。応募主体は観光協会や地域団体が中心で、自治体・DMO主導のプロモーションが量的に拡大しているが、企業発のマーケティング視点の作品は相対的に少なく、商業的スケール展開の余地が残る。テーマは地域文化・食・自然・伝統体験といった「観光資源の魅力訴求」が傾向が見られた。加えて個人クリエイターの応募増加は、表現の多様化と発信の裾野拡大を示唆しており、今後は**UGC的視点の活用や共創型プロモーションへの展開余地がある**と言える。

CJPF AWARD 2026 募集結果

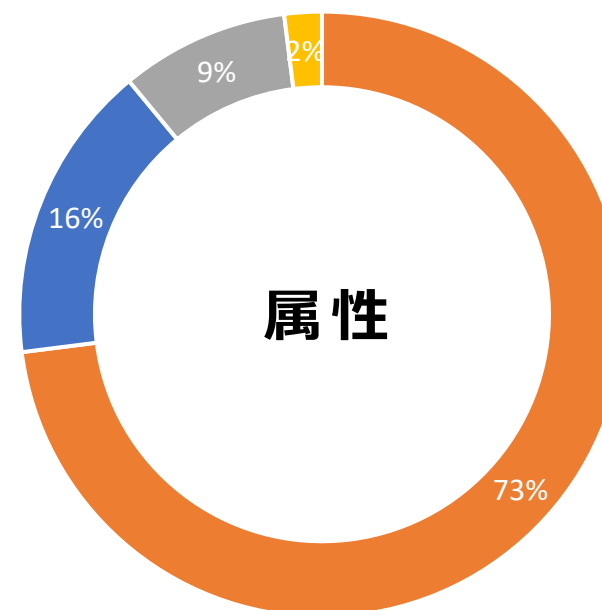
プロジェクト部門 応募件数

100件

- プロジェクトはインバウンドと海外展開両方を跨ぐエントリーは5割を超える結果に。
- 昨年同様企業の比率が7割を超える結果となった。
- 個人も昨年から2%から9%と大きく伸ばす結果となった。



■ インバウンド ■ 両方 ■ 海外展開



■ 企業 ■ その他の団体 ■ 個人 ■ 自治体

CJPF AWARD 2026プロジェクト部門では、「インバウンド×海外展開」を両立する案件が過半（52件）を占め、**単一目的型から複合的な事業設計へと進化している**点が特徴的である。国内誘客と海外市場開拓を一体で捉える動きが明確に強まっており、観光と輸出・ブランド展開の接続が進んでいる。一方で応募主体は企業が73%と引き続き中心であり、実行力・事業性を伴うプロジェクトが主流であることが確認された。**ムービー部門と比較すると民間主導色が強い構造となっている**。また、個人応募は9%まで増加し、新規プレイヤーの参入や小規模プロジェクトの台頭も見られる。テーマとしては地域資源活用に加え、IP活用・商品開発・越境マーケティングなど、よりビジネス成果を意識した設計が多く、単発施策ではなく継続的な事業化を前提とした取り組みが増加している。全体として、**量より質、単発から統合型へと進展しており、今後はスケラビリティや海外市場での収益化モデルの確立が重要な論点となる**。

ムービー部門 応募総数：237件
(前年：268件)

ムービー部門 採点表

	採点項目	配点
日本の魅力の訴求観点	①テーマとするオーセンティックな日本の魅力（日本文化の本質さ、唯一無二、特別感、先進性など）があるか	15点※
	②映像を発信する国・地域・言語圏・対象者と発信手法の適切さ	15点※
	③テーマとする魅力を対象者に伝えるための映像の表現や演出の工夫	5点
ビジネス観点	④視聴者をアクション（訪日・体験・購入・SNS拡散等）に導く工夫	10点※
未来視点	⑤将来に向けて持続可能な展開の可能性があるか	5点
	合計	50点

※2026より加重採点へ変更。映像を作って終わりではなく、ターゲットにより見てもらうための活動を評価するため、配点を変更した。

プロジェクト部門 応募総数：100件
(前年：103件)

プロジェクト部門 採点表

	採点項目	配点
日本の魅力の訴求観点	①テーマとする日本の魅力の体験を促進し、体験価値を高めた工夫とその効果	25点※
	②日本の魅力を提供する海外・インバウンドの対象者（国・年齢等）の選定と手法の適切さ	5点
ビジネス観点	③体験者・ファンの拡大の数、売上、報道等の実績（または見込まれる期待）	5点
連携による効果	④テーマとする魅力の分野間（主体間、地域間、国内・海外間も含む）の横断・連携の効果	10点
未来視点	⑤プロジェクトの継続性・発展性、他へのモデル性・波及効果	5点
	合計	50点

※昨年同様、最重要項目である「テーマとする日本の魅力の体験を促進し、体験価値を高めた工夫とその効果」の配分を50%とする。

CJPF AWARD 2026 審査員 (ムービー部門)

審査委員長



田中 里沙 様
学校法人先端教育機構
事業構想大学院大学 学長
クールジャパン官民連携
プラットフォーム 共同会長

審査員



クリス・グレン 様
有限会社パスト・プレゼント・フューチャー
代表取締役/ラジオDJ /
インバウンド観光アドバイザー



田澤 麻里香様
株式会社KURABITO STAY
代表取締役社長



矢野 貴久子様
株式会社アイスタイル
BeautyTech.jp 編集長



ダコスタ・レティシア 様
Japan Experience株式会社
プロダクト・マネージャー



牧野 友衛 様
(一社) メタ観光推進機構 代表理事
日本政府観光局 (JNTO)
デジタル戦略アドバイザー



渡邊 賢一 様
価値デザイナー
株式会社XPJP 代表取締役
株式会社ジョ・ガストロノミー 代表取締役

CJPF AWARD 2026 審査会の実施 (ムービー部門)

- ◆ 2025年12月9日（火）に、Aivicスペース神田にて、ムービー部門の審査会を実施した。
- ◆ 審査会は、審査員による書面審査結果を基に、ディスカッション形式で受賞作品を決定するフローとした。

1. 開会

- (1) ご挨拶
- (2) 審査委員の紹介

2. 審査

- (1) 審査手順のご説明
- (2) 書類審査結果の確認
 - ①事務局から書類審査結果の発表
- (3) 各賞の選考
 - ①審査員自己紹介と評価観点
 - ②各賞選考・グランプリ 2件（自治体、民間 各1件）
 - ・準グランプリ 2件程度
 - ・優秀賞 4～5件程度

3. 各賞の主旨

・**グランプリ（自治体・公共団体等から1件、企業・個人等から1件想定）**

下記の観点において、全ての評価が総合的に最も高いムービーに贈賞。

- ①テーマとするオーセンティックな日本の魅力（日本文化の本質さ、唯一無二、特別感、先進性など）があるか
- ②映像を発信する国・地域・言語圏・対象者と手法の適切さ
- ③テーマとする魅力を対象者に伝えるための映像の表現や演出の工夫
- ④視聴者をアクションに導く工夫（訪日・体験・購入・SNS拡散等）
- ⑤将来に向けて持続可能な展開の可能性があるか
- ◎テーマとする魅力の分野間（主体間、地域間、国内・海外間も含む）の横断・連携により効果を上げたムービーは特に評価の対象とする。

・**準グランプリ（2件程度）**

グランプリに次いで評価が高い優良なムービーに贈賞。

・**優秀賞（4～5件程度）**

対象分野のバランスを考慮して、採点基準のいずれかが優れたムービーに贈賞。

4. その他

- ・受賞の取組の確認と発表について

審査会配布資料

- ・資料0. 進行次第
- ・資料1. 審査員名簿
- ・資料2. 審査員書面審査 採点結果
- ・資料3-(1).集計結果（選定人数・総合点・平均点）
- ・資料3-(2).候補動画 概要一覧
- ・資料4. 採点基準表



CJPf AWARD 2026 審査会の実施 (ムービー部門)

◆ 審査会の結果、グランプリ2件、準グランプリ2件、優秀賞4件を選出した。

ムービー部門 受賞作品一覧

賞名	タイトル	応募者名 (企業・団体)
グランプリ (自治体)	Discover Oita's Hidden Gems: The Art Edition	大分県 (制作 : ENGAWA株式会社)
グランプリ (民間)	TOKYO Okutama: Your Gateway to Forest Calm, Healing Retreats, and Exciting Adventures	株式会社TYO
準グランプリ	Yoron Island Your own life, your own voyage. 4K	etooto株式会社
準グランプリ	蒟蒻麻絲 KONJAC LINEN	湖東繊維工業協同組合
優秀賞1	新篠津産米魅力発信動画「わたしのふるさとの話」	株式会社REACTOR
優秀賞2	Modern Luxury, TOYAMA : IWASE篇	株式会社wondertrunk&co.
優秀賞3	Beneath the Surface – Discover Okinawa with Hilton	ヒルトン沖縄
優秀賞4	Japan Pearl 2025 Uwajima Kobe	日本真珠輸出組合

CJPF AWARD 2026 審査会にて評価の高かった動画のポイント

ムービー部門 審査会 12/9(火)

- ・**ターゲットと目的が明確**
誰に向け、視聴後に何をしてほしい動画かが一目で分かる
- ・**冒頭で惹きつける“つかみ”がある**
最初の数秒で世界観・魅力が伝わる
- ・**美しいだけで終わらない**
映像美は前提条件。独自の切り口・メッセージがある
- ・**一つの魅力にフォーカス**
詰め込みすぎず、核となる価値を深掘りしている
- ・**ストーリー性・情緒性がある**
最後まで飽きずに見られ、「行ってみたい」と思わせる
- ・**テンポが良く、説明過多でない**
ナレーションやテロップに頼りすぎない構成
- ・**海外視点で日本独自の魅力が伝わる**
他国にはない価値・文化が明確
- ・**スマホ視聴を前提に設計**
文字・字幕・構成がスマホでも伝わる
- ・**発信・活用まで含めた設計**
SNS・広告・二次利用などプロモーション視点がある
- ・**作り手の想いや挑戦が伝わる**
制作費よりもアイデアと姿勢が評価される

CJPF AWARD 2026 審査員 (プロジェクト部門)

審査委員長

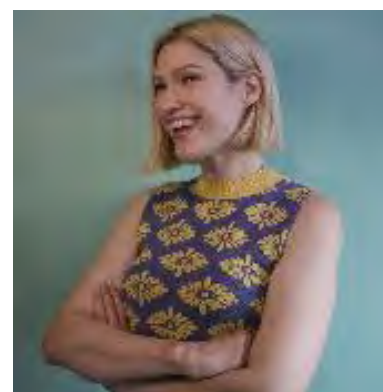


夏野 剛様
近畿大学 特別招聘教授
情報学研究所長
クールジャパン官民連携
プラットフォーム 共同会長

審査員



楠本 修二郎様
ZEROOCO株式会社 代表取締役社長
農業生産法人株式会社JAPAN FARM
PARTNER 代表取締役社長
一般社団法人おいしい未来研究所
代表理事



ローレン・ローズ・コーカー様
Vegas PR Group 代表



コチュ・オヤ様
株式会社Oyraa 代表取締役社長



梅澤 高明 様
CIC Japan会長
A.T. カーニー
シニアアドバイザー



山田 早輝子 様
国際ガストロノミー学会 日本代表
株式会社FOOD LOSS NANK
代表取締役社長
Sports Doctors Network COO
アジア代表



軍地 彩弓様
編集者
ファッション・クリエイティ
ブ・ディレクター

CJPF AWARD 2026 審査会の実施 (プロジェクト部門)

- ◆ 2025年12月10日（水）に、Aivicスペース神田にて、ムービー部門の審査会を実施した。
- ◆ 審査会は、審査員による書面審査結果を基に、ディスカッション形式で受賞作品を決定するフローとした。

1. 開会

- (1) ご挨拶
- (2) 審査委員の紹介

2. 審査

- (1) 審査手順のご説明
- (2) 書類審査結果の確認
 - ①事務局から書類審査結果の発表
- (3) 各賞の選考
 - ①審査員自己紹介と評価観点
 - ②各賞選考・グランプリ 1件
 - ・準グランプリ 2件程度
 - ・優秀賞 3～5件程度

3. 各賞の主旨

・グランプリ（1件）

下記の観点において、最も優れたプロジェクトに贈賞。

- ①テーマとする日本の魅力の体験を促進し、体験価値を高めた工夫とその効果
- ②日本の魅力を提供する海外・インバウンドの対象者（国・年齢等）の選定と手法の適切さ
- ③体験者・ファンの拡大の数、売上、報道等の実績（または見込まれる期待）
- ④テーマとする魅力の分野間（主体間、地域間、国内・海外間も含む）の横断・連携の効果
- ⑤プロジェクトの継続性・発展性、他へのモデル性・波及効果

・準グランプリ（2件程度）

グランプリに次いで評価が高い優良なプロジェクトに贈賞。

・優秀賞（3～5件程度）

対象分野のバランスを考慮して、採点基準のいずれかが優れたプロジェクトに贈賞。

4. その他

- ・受賞の取組の確認と発表について

審査会配布資料

- ・資料0. 進行次第
- ・資料1. 審査員名簿
- ・資料2. 審査員書面審査 採点結果
- ・資料3-(1).集計結果（選定人数・総合点・平均点）
- ・資料3-(2).候補プロジェクト 概要一覧
- ・資料4. 採点基準表



CJPF AWARD 2026 審査会の実施 (プロジェクト部門)

◆ 審査会の結果、グランプリ1件、準グランプリ2件、優秀賞3件を選出した。

プロジェクト部門 受賞作品一覧

賞名	タイトル	応募者名 (企業・団体)
グランプリ	日本のコンテンツを共に創り、戦略的に世界へ届ける文化交流プロジェクト	マンガプロダクションズ/Manga Arabia
準グランプリ	Another Side of Japan	株式会社TYO
準グランプリ	東京建物三津寺ビルディング	宗教法人三津寺/東京建物株式会社 /大成建設株式会社
優秀賞1	インバウンド免税ECモール「TaxFreeOnline.jp」	アイエントエマージ株式会社
優秀賞2	木桶職人復活プロジェクト	木桶職人復活プロジェクト
優秀賞3	富裕層向けサステナブルな文化体験サービス	株式会社こはく

CJPF AWARD 2026 審査会にて評価の高かったプロジェクトのポイント

プロジェクト部門 審査会 12/10(水)

- ・**日本独自の価値が明確**
他国で代替できない文化・産業・仕組みを扱っている
- ・**単発で終わらず、広がり・継続性がある**
他地域・他分野へ横展開できる構造を持つ
- ・**社会性と経済性の両立**
文化保存・社会課題解決だけでなく、事業として成立している
- ・**体験や行動につながる導線がある**
「興味 → 体験 → 消費・訪日」までが設計されている
- ・**海外視点で通用する設計**
ローカル完結ではなく、グローバル市場を意識している
- ・**マーケティング・発信力を備えている**
SNS・デジタル活用により、自然に海外へ届いている
- ・**スケールは小さくても本質的価値が高い**
派手さよりも、日本全体の底上げにつながる取り組み
- ・**“なぜ今やるのか”が語れる**
産業継承・人材・国際競争力など、時代性がある
- ・**挑戦性・ファーストペンギン性**
前例が少なく、リスクを取って新しいモデルを示している
- ・**応援したくなるストーリーがある**
人・地域・想いが見え、共感を生む

CJPF AWARD 2026 審査会にていただいたコメント (CJPFアワード審査基準・募集・運営等について)

ムービー部門 審査会 12/9(火)

- ・再生数は公開時期によって異なるので、時間的な制限を設定する必要があるのでは？
- ・縦長動画が主流となりつつあるので、今後はリール動画等を評価すべきではないか
- ・「ツーリズムに活かす目的の動画なのか」「伝統工芸を紹介する動画なのか」枠が分かれていなかったため、採点しにくさを感じた。

プロジェクト部門 審査会 12/10(水)

- ・応募準備の負担が大きいのでは？(忙しい現場・小規模事業者は断念してしまう) 資料の用意のハードルが高い
- ・他薦でのエントリーを導入すべきではないか、委員側の推薦をより強化したい
- ・CJFPアワード自体の認知向上・告知をもっとすべき
- ・受賞するとどのようなメリットがあるか伝わっていない、受賞するインセンティブが弱いのではないか。
- ・認証マークなど導入しても良いのでは？
- ・大臣賞という認識がないのではないか (CJPFとして3人の会長のお名前が入っている)
- ・やっているけど届かないでは意味がない。しっかりとPRをすべき
- ・表彰式は1分動画などを作成し、誰がどのような取り組みをやっているか表現した方が良いのでは？

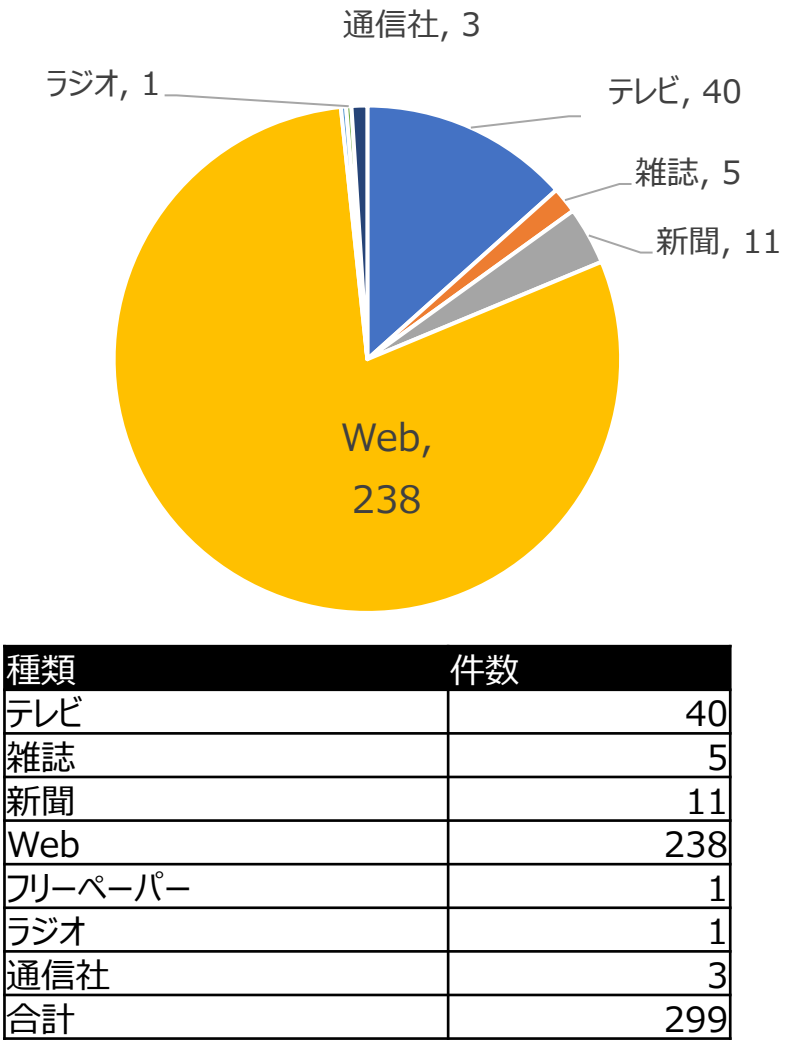
CJPF AWARD 2026 メディア向けプレスリリースの配信

◆ 2026年2月20日(金) CJPF AWARD受賞者決定のプレスリリースをPR TIMESを通じ、メディア向けにリリースを実施した

プレスリリース内容



配信メディア数



CJPF AWARD 2026 表彰式の実施

- 表彰状はCJPF AWARD向けに別注した和紙で制作。
- 記念品は伝統工芸「うるし紙」とNFC技術を組み合わせた特別仕様のご朱印帳を制作。

表 彰 状



記 念 品 (ご 朱 印 帳)



CJPF AWARD 2026 表彰式の実施

名称	CJPF AWARD2026表彰式	
日程	2026年 3月2日(月) 10:00～13:05	
プログラム	時間	プログラム
	10:00-10:10	表彰式開始・開会挨拶
	10:10-10:45	プロジェクト部門 表彰式
	10:45-11:30	ムービー部門 表彰式
	11:45-12:05	交流会一部
	12:15-12:40	大臣ご挨拶・写真撮影
	12:40-13:05	交流会二部
会場	日比谷国際ビル コンファレンススクエア8階 8F会議室 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル8階	
主催	クールジャパン官民連携プラットフォーム	
事務局	内閣府知的財産戦略推進事務局	
後援	文化庁／農林水産省／経済産業省／観光庁／環境省／クールジャパン機構／日本政府観光局(JNTO)／日本商工会議所／東京商工会議所	
開催形式	リアル開催 & 全編撮影収録し、後日Youtubeにて配信	

CJPF AWARD 2026 表彰式の実施

賞名	ムービー部門 タイトル	応募者名 (企業・団体)	記念写真
グランプリ(自治体)	Discover Oita's Hidden Gems: The Art Edition	大分県（制作：ENGAWA 株式会社）	
グランプリ(民間)	TOKYO Okutama: Your Gateway to Forest Calm, Healing Retreats, and Exciting Adventures	株式会社TYO	
準グランプリ	Yoron Island Your own life, your own voyage. 4K	etooto株式会社	
準グランプリ	蒟蒻麻絲 KONJAC LINEN 制作工程	湖東繊維工業協同組合	

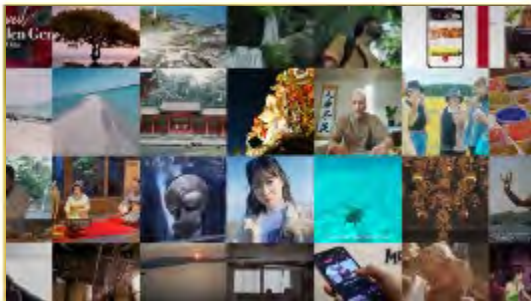
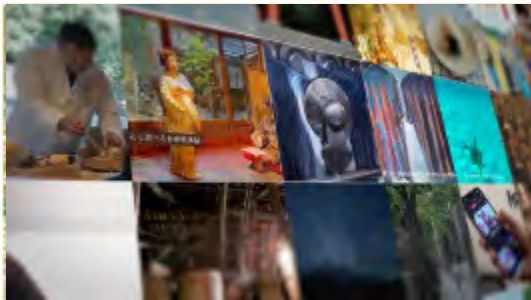
賞名	プロジェクト部門 タイトル	応募者名 (企業・団体)	記念写真
グランプリ	日本のコンテンツを共に創り、戦略的に世界へ届ける文化交流プロジェクト	マンガプロダクションズ /Manga Arabia	
準グランプリ	Another Side of Japan	株式会社TYO	
準グランプリ	東京建物三津寺ビルディング	宗教法人三津寺/ 東京建物株式会社/ 大成建設株式会社	



CJPf AWARD 2026 表彰式の実施

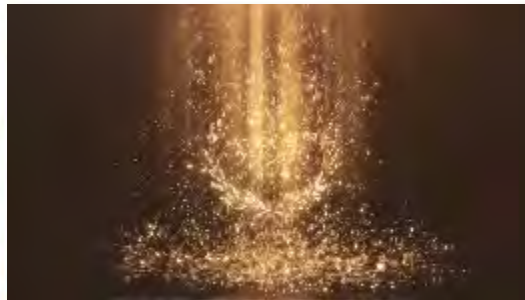
- ◆昨年度同様、オープニングVTR、タイトルアタックを用意。映像の活用によりスムーズな進行を実現した。
- ◆受賞作品の紹介は、各案件ごとに映像を活用し、短い時間で完結に受賞作品の紹介や受賞者コメントを発表した。

オープニング

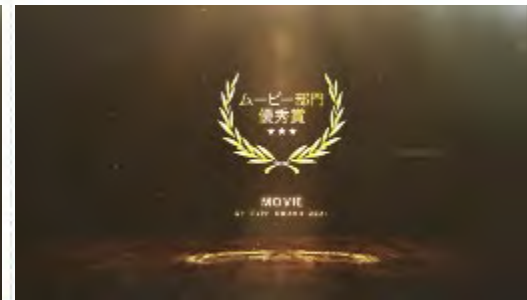


CJPf AWARD

グランプリ・準グランプリアタック



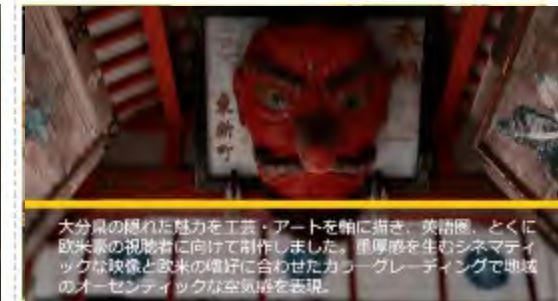
優秀賞アタック



作品紹介

Discover Oita's Hidden Gems: The Art Edition

大分県 (制作: ENGAWA株式会社)



大分県の隠れた魅力を工芸・アートを軸に描き、英語圏、とくに欧米系の観光客に向けて制作しました。重厚感を生むシネマティックな映像と欧米の嗜好に合わせたカラーグレーディングで地域のオーセンティックな雰囲気を表現。



目のアップから始める構成で普遍的な喜びを生み、ターゲティングを行った広告品で効果的に届けました。

CJPF AWARD 2026 表彰式の実施

- ◆参加型・立食型の交流会を実施。受賞者用に交流カードを作成し、交流しやすい仕組みづくりを行なった
- ◆活発なコミュニケーションが発生し、盛り上がりのある交流会となった。

交流会の様子



(1) CJPF におけるCJPF AWARD等各種イベントの企画・運営・評価に関する調査 CJPF AWARD 2026

CJPF AWARD 2026 プレスリリースの配信

◆CJPF AWARD表彰式当日、開催後のプレスリリース配信によりCJPF AWARD表彰作品の広報活動を実施した。

プレスリリースの配信

「クールジャパン・プラットフォームアワード2026」グランプリ / 準グランプリ / 優秀賞 計14作品が受賞！

このたびは、素晴らしい受賞作品が数多く寄せられ、誠に感謝する所でございます。日本経済を元気にするプラットフォーム事業の発展に、ぜひともご協力をお願いいたします。

本賞では、優秀・高度技術者大賞を受賞。クールジャパン官民連携プラットフォームに、この賞の受賞作品は、プラットフォームの発展に貢献する作品と評価。受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。各賞の受賞作品は、各賞の受賞作品の中から、最も優秀な作品として、グランプリ・準グランプリ・優秀賞に選ばれた。

配信先メディア数

1,200 1,199 23

媒体名

ニコニコニュース

BtoBプラットフォーム 業界チャンネル

SEOTOOLS

Infoseek ニュース(インフォseekニュース)

東洋経済オンライン

おたくま経済新聞

時事ドットコム

産経ニュース

iza(イザ！)

毎日新聞デジタル

ライブドアニュース(livedoor ニュース)

Mapionニュース(マピオンニュース)

PRESIDENT Online(プレジデントオンライン)

STRAIGHT PRESS(ストレートプレス)

@DIME(アットダイム)

JBpress(ジェイビープレス)

財經新聞

ジョルダンニュース！

朝日新聞デジタルマガジン&[and]

NIKKEI COMPASS

NewsPicks

とれまがニュース

ニフティニュース(@niftyニュース)

当日取材メディア

当日取材メディア

朝日新聞社

中国新聞社

奄美新聞社

京都新聞社

南海日日新聞東京

株式会社TBSラジオ

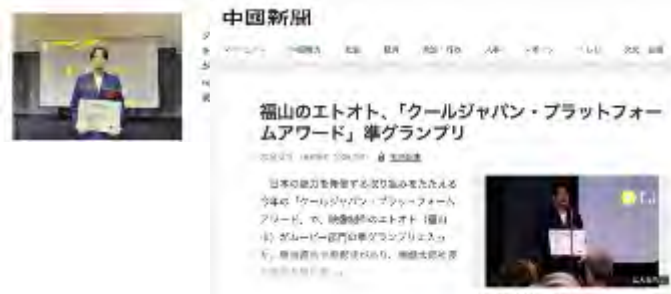
株式会社GPlusMedia (ジャパントウデイ)

リンクタイズ株式会社 (Forbes JAPAN)

Aetas株式会社 (4Gamer)

共同PR株式会社

株式会社ブランドジャーナリズム



CJPF AWARD 2026 プレスリリースの配信

◆PR TIMESによるプレスリリースの拡散先記事ページの詳細は以下の通り。

No.	媒体名	媒体社名	URL
1	ニコニコニュース	株式会社ドワンゴ	https://news.nicovideo.jp/watch/nw18989475
2	BtoBプラットフォーム 業界チャンネル	株式会社インフォマート	https://b2b-ch.infomart.co.jp/news/detail.page?IMNEWS4=6392607
3	SEOTOOLS	ブラストホールディングス株式会社	https://www.seotools.jp/news/id_000000037.000109609.html
4	Infoseek ニュース(インフォseekニュース)	楽天グループ株式会社	https://news.infoseek.co.jp/article/prtimes_000000037_000109609/
5	東洋経済オンライン	株式会社東洋経済新報社	https://toyokeizai.net/ud/pressrelease/69a559ae126217a03b00000a
6	おたくま経済新聞	シー・エス・ティー・エンターテインメント株式会社	https://otakuma.net/archives/prtimes/202603025139768.html
7	時事ドットコム	株式会社時事通信社	https://www.jiji.com/jc/article?k=000000037.000109609&g=prt
8	産経ニュース	株式会社産業経済新聞社、株式会社産経デジタル	https://www.sankei.com/pressrelease/prtimes/O4HOTICGJ5PJHCUZ4ULAOZMUGQ/
9	iza(イザ!)	株式会社産経デジタル	https://www.iza.ne.jp/pressrelease/prtimes/O4HOTICGJ5PJHCUZ4ULAOZMUGQ/
10	毎日新聞デジタル	株式会社毎日新聞社	https://mainichi.jp/articles/20260302/pr2/00m/020/953000c
11	ライブドアニュース(livedoor ニュース)	株式会社ライブドア	https://news.livedoor.com/pr_topics/detail/30682755/
12	Mapionニュース(マピオンニュース)	株式会社ONE COMPATH	https://www.mapion.co.jp/news/release/000000037.000109609/
13	PRESIDENT Online(プレジデントオンライン)	株式会社プレジデント社	https://president.jp/ud/pressrelease/69a563647079c8cbfa000024
14	STRAIGHT PRESS(ストレートプレス)	株式会社PR TIMES	https://straightpress.jp/company_news/detail?pr=000000037.000109609
15	@DIME(アットダイム)	株式会社小学館	https://dime.jp/company_news/detail/?pr=2480069
16	JBpress(ジェイビープレス)	株式会社日本ビジネスプレス	https://jbpress.ismedia.jp/ud/pressrelease/69a56363126217b353000021
17	財経新聞	株式会社財経新聞社	https://www.zaikei.co.jp/releases/3326391/
18	ジョルダンニュース!	ジョルダン株式会社	https://news.jorudan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=PT000037A000109609
19	朝日新聞デジタルマガジン&[and]	株式会社朝日新聞社	https://www.asahi.com/and/pressrelease/16391078
20	NIKKEI COMPASS	株式会社日本経済新聞社	https://www.nikkei.com/compass/content/PRTKDB000000037_000109609/preview
21	NewsPicks	株式会社ユーザベース	https://newspicks.com/news/16154071/
22	とれまがニュース	株式会社サイトスコープ	https://news.toremaga.com/release/others/3998210.html
23	ニフティニュース(@niftyニュース)	ニフティ株式会社	https://news.nifty.com/article/economy/business/12365-4997843/

CJPF AWARD 2026 プレスリリースの配信

◆各地方メディア・専門メディアから表彰式の記事が多数リリースされた。(以下、一部抜粋)

JAPAN TODAY



南海日日新聞



南日本新聞



京都新聞



MUSICMAN



4Gamer



朝日新聞



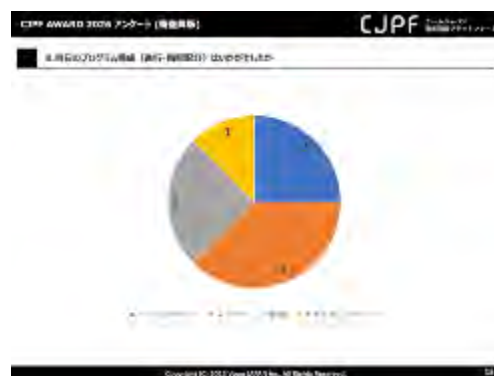
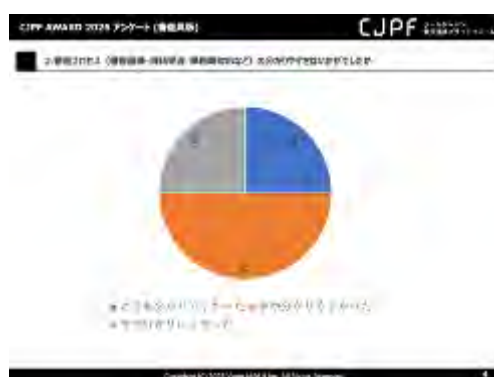
愛媛新聞



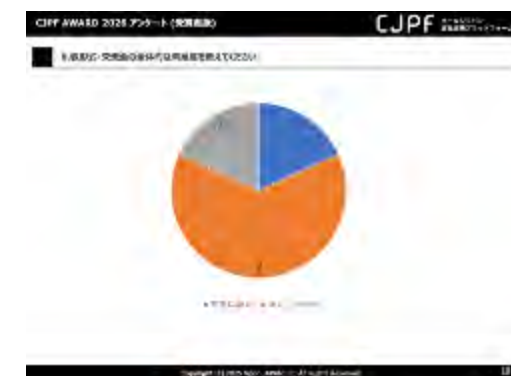
CJPF AWARD 2026 アンケートの実施

◆受賞者・審査員それぞれに対し、アワード自体や表彰式・交流会に関するアンケートを実施。受賞者11名に対して、応募プロセスの仕組み、CJPFアワードへの期待や今後の課題など、合計12個の設問へ回答頂く。一方、審査員8名に対しては、審査プロセスや採点基準の公平性、今後に向けた運営課題など、合計10個の設問へ回答頂く。（アンケートはオンラインにて。2026年3月5日～12日の1週間にて実施。）

審査員向け



受賞者向け



CJPF AWARD 2026 アンケート(受賞者)からみた課題と改善点

総括

CJPF AWARDに対する、全体的な満足度は高い【受賞者へのアンケート回答結果より（非常に満足・満足が約8割）】
一方、主要な課題は以下3点に集約された。

①アワード受賞後の価値不足 ②審査フローの透明性 ③参加者同士の交流設計

応募・審査プロセスの改善

全体的には応募プロセスについて「とても分かりやすかった」が多数。
「分かりにくい」というネガティブな意見は見られなかった。

次回以降の改善要望点として、以下の意見あり。

- ・フォームUX不備（自分が記載した内容を残せるようにしてほしい）
- ・審査項目の明確化（応募フォーム作成の際に、審査項目が分かりづらく迷ってしまった）
- ・審査基準の明確化（審査の際の評価軸を明確化してほしい）



認知拡大・ブランド課題

CJPFの認知拡大やブランド化に向けては、以下多数の意見を頂く。

- ・メディア連携による認知拡大（後援省庁からの情報発信、SNS媒体の積極活用など）
- ・toBだけでなく、toCに向けた門戸の開放による認知向上
- ・過去の受賞者達との交流促進
- ・名称に関する検討（CJPFという名称をより分かりやすい言葉にする）
- ・ノミネート作品（一次審査通過作品）の一覧化による注目度の向上



CJPF AWARD 2026 アンケート(受賞者)からみた課題と改善点

受賞価値の強化

本アワード受賞に伴う価値として、所属企業の公式HPでのリリースやSNSによる告知など、一定程度の広報効果はあり。ただし、広報的な訴求面以外でのアワード価値に関しては、今後強化を行う必要がある。

- ・海外進出の足掛かり (受賞作品を束ねた海外ポップアップイベントの開催)
- ・権威性の強化 (受賞作品が国内外の関係者の中で、一定の評価指標となるべき)
- ・継続的な露出支援 (一過性のイベントに終わらず、地域の自治体等と連携した情報連携)

表彰式・交流会の改善

表彰式・交流会の満足度は8割を超え全体的には高評価(受賞者へのアンケート結果より)
表彰式後のネットワーキングについても、異業種交流などに高い満足度を感じて頂けたものの、以下の改善希望あり。

- ・交流時間の拡大 (限られた時間での交流であったため、十分なネットワーキングが出来なかった)
- ・交流方法の工夫 (深い交流を行うために、ある程度グルーピングされた層での交流を行いたい)
- ・事前設計の改善 (簡単な自己紹介や少人数でのグループワーク等、交流のきっかけとなるタッチポイント強化)
- ・運営面の改善点 (交流カードの積極活用、プログラム構成の見直し、フロアディレクターの機能強化など)

受賞者アンケートからは、CJPFアワード全般について高い満足度を得ている一方で、受賞後の活用機会や海外展開における支援体制の不足、ならびに審査基準の明確性やイベント内における、参加者同士のネットワーキングの設計に課題があることが明らかとなった。
今後は、主催者側の一方的な運営にならず、受賞者にとって実質的な価値を提供する仕組みを強化しアワード全体の魅力と影響力の向上を図る必要がある。

CJPF AWARD 2026 アンケート(審査員)からみた課題と改善点

CJPF AWARDの現状と課題構造

CJPF AWARDに対する、全体的な満足度は高い【審査員へのアンケート回答結果より（非常に満足・満足が約8割）】
一方、主要な課題は以下3点に集約された。

①審査基準の曖昧さ（公平性・再現性）②アワード価値・認知不足（応募数・質） ③表彰体験・運営品質

審査制度の課題と改善

審査プロセスについては審査員からも好評で、特段の指摘は見られなかった。
一方で審査基準については、次年度に向けて多くの改善意見が寄せられる結果となった。

- ・採点基準、配点の妥当性
 - ▶目的別に賞を分けても良いのではないか。知ってもらうため？訪れてもらうため？買ってもらうため？用途が変わると思う。
- ・定量的な評価基準の併用
 - ▶情緒的に判断し過ぎる傾向があるため、集客数や参加人数など、判断基準のパラメーターとなる指標の導入。
- ・エントリースピーチの導入
 - ▶全ての応募コンテンツの目を通すために、1分～3分程度のエントリースピーチ導入。背景やストーリーの事前理解にもつながる。
- ・エントリー作品の網羅性
 - ▶応募数が限定的であるため、本当に選定すべき内容なのかの判別が難しい。他薦なども導入することで、本来選ばれるべきプロジェクトを選定すべきである。



CJPF AWARD 2026 アンケート(審査員)からみた課題と改善点

応募拡大・ブランド課題

2026年度は、CJPF AWARDの応募数が昨年割れとなったこともあり、以下多くの改善意見を審査員から頂く。

- ・応募拡大に向けた積極活動 (47都道府県の自治体連携、説明会・プレゼンの場づくり、SNS活用による告知)
- ・多岐に渡るプロモーション (海外からの応募促進、クリエイターへのアクセス強化、動画マーケティング企業との連携など)
- ・受賞者ファーストの設計 (受賞者への配慮不足、賞金や受賞記念盾の贈呈、当日のホスピタリティ向上)
- ・受賞メリットの価値拡大 (受賞価値が不明確、受賞メリットを明確に)

体験・運営の課題

当日の運営面については、数多くのイベント経験がある審査員より改善に向けた積極的な意見が寄せられた。

- ・表彰式の演出工夫 (審査員の活用、受賞理由などを参加している審査員から語ってもらう等)
- ・全般的な運営体制 (リハーサルや事前準備不足の指摘。集合写真の撮影クオリティに対する指摘)
- ・受賞者ファーストの設計 (アワード受賞者へのプレゼン機会の提供など、アワードファーストの設計を)
- ・複合的なイベント告知 (メディアを絡めた認知向上、アワードをラボやモデル事例、総会に活用するエコシステム構築)

審査員へのアンケート結果より、CJPFアワードは一定の評価を得ている一方で、審査基準の明確化、アワード価値の言語化、ならびに受賞体験の向上が今後の重要課題であることが明らかとなった。特に、評価基準の再設計と応募母集団の拡大、さらにPR戦略の強化を通じて、アワードの認知および社会的価値を高めていく必要がある。

CJPF AWARD 2026 事務局からみた課題と改善点

募集・エントリー関連

■課題

- ・募集開始のタイミング
- ・応募負担が高い
- ・ターゲット設計

▶ 応募数重視 → 質重視へ

■改善

- ・募集前倒し（ティザー・リスト準備・告知強化）
→定常的な知名度向上対応
- ・簡易エントリー導入(2段階に分けるなど)
- ・ターゲット別アプローチ

エントリーフォーム・データ管理

■課題

- ・フォームが複雑
- ・手作業でのファイル管理
- ・言語・複数応募の非効率

■改善

- ・自動格納・一元管理（事務局側の改善）
- ・入力制御・フォーマット統一
- ・日英フォーム分離（英語は1%も満たない）

審査・運営フロー

■課題

- ・役割不明確（事務局／知財局）
- ・審査プロセス曖昧
- ・紙ベース運用

■改善

- ・役割明確化
- ・審査フロー整理
- ・完全デジタル化

受賞後対応・連携手法

■課題

- ・個別連絡が多い
- ・情報整理が非効率
- ・ツール分散

■改善

- ・一括コミュニケーション
- ・情報取得の標準化（両社オンライン上での管理）
- ・IT基盤整備（ファイル格納など含め）

CJPF AWARD 2026 総合サマリー

CJPFアワード2026 改善提言（統合サマリー）

本アンケート（審査員・受賞者）および事務局視点を統合的に分析した結果、次年度に向けては、以下の4点を重点的に検討・改善していく必要があると考えられる。

① アワード価値の再定義

CJPFアワードが何を評価し、どのような価値を提供するのかを明確化する必要がある。特に「受賞することでどのようなメリットがあるのか（PR機会、海外展開、ビジネス機会など）」を明文化し、対外的に発信することで、応募意欲および認知の向上につなげる。

② 審査基準・部門設計の再構築

評価基準の透明性および公平性を担保するため、認知・集客・購買・文化価値などの目的別評価軸や、再生数・リーチなどの定量指標の導入を検討する。また、SNS・ショート動画やツーリズム／プロダクトなど、実態に即した部門設計へと拡張し、「応募者が狙って参加できるアワード」へ進化させる。

③ 受賞後価値の最大化

受賞を単発の評価に留めず、海外PR支援、メディア露出、ビジネスマッチングなどの支援施策を設計し、受賞者の事業成長につながる仕組みを構築する。また、受賞者コミュニティの形成や継続的なイベント開催、CJPF Labとの連携等を通じて、アワードを起点としたエコシステムの構築を目指す。

④ 運営の仕組み化・効率化

応募・審査・受賞後対応において、メールや手作業に依存した非効率な運営が見られるため、データ管理の一元化、応募フォームの簡素化、コミュニケーションの集約などを進め、運営の標準化・自動化を図る。これにより、知財局様、及び事務局の効率化とともに、全体の品質向上を実現する。